



TITLE:

# The Transfer Maps in the $SKR\_G$ -Theory (無限ループ空間の位相)

AUTHOR(S):

橋本, 伸

---

CITATION:

橋本, 伸. The Transfer Maps in the  $SKR\_G$ -Theory (無限ループ空間の位相). 数理解析研究所講究録 1980, 389: 92-101

ISSUE DATE:

1980-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/104924>

RIGHT:

# The transfer maps in the $KR_G$ -theory

阪市大 理学部 橋本 伸

## § 1 $KR_G$ -理論

$G$  を involution  $\tau$  を持った実性 compact Lie 群,  $X$  を実性  $G$ -空間とする.

定義  $\xi = (p: E \rightarrow X)$  が実性  $G$ -ベクトル束であるとは, 次の i) ~ iv) を満たすことである.

- i)  $\xi$  は複素ベクトル束
- ii)  $E, X$  は実性  $G$ -空間で  $p$  は実性  $G$ -写像
- iii) fibrewise に  $G$  は複素線型に作用
- iv) fibrewise に  $\tau$  は反線型に作用

compact 実性  $G$ -空間  $X$  上の実性  $G$ -ベクトル束全体には Whitney 和  $\oplus$ , テンソル積  $\otimes$ , 外積  $\wedge^k$  が定義されて  $\lambda$ -半環になる. その Grothendieck 環を  $KR_G(X)$  と書く ([2, 3]). 通常の場合と同様に, compact でない  $X$  に対しては実性  $G$ -ベクトル束の複体によつて  $KR_G(X)$  を定義する.

命題 1.1 ([2])  $KR_G$ -理論は実性  $G$ -空間 ( $= G \times_{\mathbb{Z}_2}$ -空間) の category から可換群の category への contravariant  $G \times_{\mathbb{Z}_2}$ -homotopy functor である。さらに  $\widetilde{KR}_G$  は half exact functor である。すなわち  $G \times_{\mathbb{Z}_2}$ -cofibration  $X \rightarrow Y \rightarrow Z$  に対して  $\widetilde{KR}_G(Z) \rightarrow \widetilde{KR}_G(Y) \rightarrow \widetilde{KR}_G(X)$  が完全列である。

$V$  を  $G$  の実性表現空間とする。  $\lambda_V = \sum_k (-1)^k \Delta^k V$  をかけることにより Thom 準同型  $\alpha: \widetilde{KR}_G(X_+) \rightarrow \widetilde{KR}_G(V^+ \wedge X_+)$  が定義される。

定理 1.2 ([3])  $\alpha$  は同型である。

準同型  $c: R_0(G \times_{\mathbb{Z}_2}) \rightarrow R_{\mathbb{R}}(G)$  を次のように定義する。  $U$  を  $G \times_{\mathbb{Z}_2}$  の実表現空間とするとき、複素ベクトル空間としても  $c(U) = U \otimes \mathbb{C}$ , 作用は  $g(u + iu') = gu + i(gu')$ ,  $\tau(u + iu') = \tau u - i(\tau u')$ , と定めたものである。また  $R_0(G \times_{\mathbb{Z}_2})$  の involution  $j$  を次のように定義する。  $G \times_{\mathbb{Z}_2}$  の実表現空間  $U$  に対して  $j(U)$  は実ベクトル空間としては  $U$ , 作用を  $*$  で書くと  $g * u = gu$ ,  $\tau * u = -\tau u$  と定めたものである。  $j(U)$  のことを  $\bar{U}$  と書くこともある。複素構造を忘れる写像  $F: R_{\mathbb{R}}(G) \rightarrow R_0(G \times_{\mathbb{Z}_2})$  を考える。

補題 1.3  $F \circ c = 1 + j$

これらの性質を用いることにより次の命題を得る。

命題 1.4  $KR_G$ -理論は  $R_0(G \times_{\mathbb{Z}_2})$ -graded な  $G \times_{\mathbb{Z}_2}$ -cohomology 理論, [5], に拡張できる。

証明  $V, W$  を  $G \times_{\mathbb{Z}_2}$  の実表現空間,  $\alpha$  を  $V \rightarrow W$  の表わす  $R_0(G \times_{\mathbb{Z}_2})$  の元とする。  $\widehat{KR}_G^{\alpha}(X_+) = \widehat{KR}_G((\bar{V} \oplus W)^c \wedge X_+)$  と定義する。 $G \times_{\mathbb{Z}_2}$  の実表現空間  $U$  に対して懸垂同型  $\sigma$  を次の列の合成によって定義する。

$$\begin{aligned} \widehat{KR}_G^{\alpha}(X_+) &= \widehat{KR}_G((\bar{V} \oplus W)^c \wedge X_+) \\ &\xrightarrow{\sigma} \widehat{KR}_G((U^c \wedge (\bar{V} \oplus W)^c) \wedge X_+) \\ &= \widehat{KR}_G((\bar{U} \oplus \bar{V} \oplus W)^c \wedge U^c \wedge X_+) \\ &= \widehat{KR}_G^{\alpha+U}(U^c \wedge X_+) \end{aligned}$$

## § 2 transfer と誘導表現

実性  $G$ -空間は involution を忘れることにより  $G$ -空間と考えることができ、実性  $G$ -ベクトル束は involution を忘れることにより複素  $G$ -ベクトル束と考えることができる。これは函手の自然変換  $\psi: KR_G \rightarrow K_G$  を導く。  $\psi$  を忘却写像とよぶ。

補題 2.1 Thom 同型は  $\psi$  と可換である。

$KR_G$ -cohomology は可容  $G \times_{\mathbb{Z}_2}$ -束  $\xi = (p: E \rightarrow X)$  に対して西田 transfer  $p_*: KR_G(E) \rightarrow KR_G(X)$  を持つ, [6]。また  $\xi$  を可容  $G$ -束と考えると  $K_G$ -cohomology は transfer  $p_*: K_G(E) \rightarrow K_G(X)$  を持つ。  $KR_G$ -cohomology および  $K_G$ -cohomology における懸垂同型は Thom 同型で与えられていたので, 補題 1.2 と西田 transfer の定義より次の命題を得る。

命題 2.2 transfer は  $\psi$  と可換である。

$H$  を  $G$  の実性閉部分群,  $i$  をその包含とする。

命題 2.3 ([6]) Segal の誘導写像  $i: R(H) \rightarrow R(G)$ , [7], は可容  $G$ -束  $(P: G/H \rightarrow \text{pt.})$  の transfer  $P_!: K_G(G/H) \rightarrow K_G(\text{pt.})$  と同一視される。

次の可換図式を考える。

$$\begin{array}{ccccc}
 R_R(H) & \xrightarrow{\cong} & K_R(G/H) & \xrightarrow{P_!} & K_R(\text{pt.}) & \xrightarrow{\cong} & R_R(G) \\
 \downarrow \psi & & \downarrow \psi & & \downarrow \psi & & \downarrow \psi \\
 R(H) & \xrightarrow{\cong} & K_G(G/H) & \xrightarrow{P_!} & K_G(\text{pt.}) & \xrightarrow{\cong} & R(G) \\
 & & & \xrightarrow{i} & & & 
 \end{array}$$

この図式の上の  $P_!$  と同型の合成により実性誘導写像

$$i: R_R(H) \longrightarrow R_R(G)$$

を定義する。 $\psi$  が単射であることより  $\psi$  と可換になる誘導写像は unique であることがわかる。また実性表現の指標は複素表現と考えたときの指標だから、実性誘導写像についても指標公式, [7], を使うことができる。 $G$  への involution の作用が trivial なとき  $R_R(G)$  は自然に  $RO(G)$  と同型である。このとき実性誘導写像は実誘導写像  $i: RO(H) \rightarrow RO(G)$  を導く。

$E$  を自由実性  $G$ -空間とする。 $G$  の実性表現  $M$  に対して実性ベクトル束  $(E \times_G M \rightarrow E/G)$  を対応させる写像  $\alpha$  は,  $\lambda$ -環準同

型  $\alpha: R_R(G) \rightarrow KR(E/G)$  を導く。

命題 2.4 次の図式は可換である。

$$\begin{array}{ccc} R_R(H) & \xrightarrow{\alpha} & KR(E/H) \\ \downarrow \tilde{\iota} & & \downarrow p_! \\ R_R(G) & \xrightarrow{\alpha} & KR(E/G) \end{array}$$

証明の概略  $\tilde{\iota}$  は  $p_!: KR_G(G/H) \rightarrow KR_G(pt.)$  と考えてよい。  
 $p_!: KR(E/H) \rightarrow KR(E/G)$  は  $p_!: KR_G(E \times G/H) \rightarrow KR_G(E)$  と同一視できる。このとき  $\alpha$  は自然な射影の導く写像と同一視される。可容  $G \times_{\mathbb{Z}_2}$ -束の pull back 図式に対して transfer は可換になることから命題を得る。([6] 参考)

$G$  と  $E$  への involution の作用が trivial なとき,  $R_R(G)$  は  $RO(G)$  に,  $KR(E/G)$  は  $KO(E/G)$  に自然に同型である。 $G/H$  は trivial な  $\mathbb{Z}_2$ -空間であるので,  $\mathbb{Z}_2$  が trivial に作用する Euclid 空間に埋め込めることに注意すれば次の系を得る。

系 2.5 次の図式は可換である。

$$\begin{array}{ccc} RO(H) & \xrightarrow{\alpha} & KO(E/H) \\ \downarrow \tilde{\iota} & & \downarrow p_! \\ RO(G) & \xrightarrow{\alpha} & KO(E/G) \end{array}$$

### § 3 直交群の実表現

$G = O(2m+1)$ ,  $H = O(2) \times O(2m-1)$ , diagonal に  $H$  を  $G$  の部分

群と考えその包含を  $\iota$  とする。  $G$  の canonical な  $2m+1$  次元実表現を  $\iota$ , determinant の表わす 1 次元実表現を  $\nu$ ,  $H$  の first projection の表わす 2 次元実表現を  $\mu$  とする。

命題 3.1  $\iota = \iota_1 \mu + \nu$

証明 両辺の指標を計算する。 Cartan 部分群の生成元は  $G$  の中で dense なので、その上での値だけを調べればよい。 $G$  の Cartan 部分群の共役類は 2 個あり、 $SO(2m+1)$  の maximal torus  $T^m$  と  $T^m \times \mathbb{Z}_2$  で代表される。ここに  $\mathbb{Z}_2$  は  $-I_{2m+1}$  で生成される部分群である。

$$g(\theta_1, \dots, \theta_m; \varepsilon) = \begin{pmatrix} D(\theta_1) & & \\ & \ddots & \\ & & D(\theta_m) \\ & & & \varepsilon \end{pmatrix} \quad D(\theta) = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

とする。 $T^m$  と  $T^m \times \mathbb{Z}_2$  の生成元は、 $\theta_1, \dots, \theta_m$  と円周率  $\pi$  が有理数体上一次独立であるような  $g(\theta_1, \dots, \theta_m; \pm 1)$  と書くことができる。指標は class function だから、これらの元における値が一致すればよい。以下の等式は明らかである。

$$\chi_2(g(\theta_1, \dots, \theta_m; \pm 1)) = \sum_{k=1}^m 2 \cos \theta_k \pm 1$$

$$\chi_\nu(g(\theta_1, \dots, \theta_m; \pm 1)) = \pm 1$$

$$\chi_\mu(g(\theta_1, \dots, \theta_m; \pm 1)) = 2 \cos \theta_1$$

指標公式を使って  $\chi_{\iota, \mu}(g(\theta_1, \dots, \theta_m; -1))$  を計算する。簡単にするため  $g(\theta_1, \dots, \theta_m; -1)$  を  $g$  と書く。 $\chi_{\iota, \mu}(g) = \sum_{x \in F} \chi_\mu(x^{-1} g x)$  で

ある。ここに  $F$  は  $g$  の  $G/H$  への作用の fixed pt. の代表の集合である。まず  $F$  を定める。  $x \in F$  ならば  $gxH = xH$  だから  $x^{-1}gx \in H$  である。  $x^{-1}gx$  は  $T^m \times \mathbb{Z}_2$  に同型な  $H$  の Cartan 部分群  $T'$  を生成する。  $T^m \times \mathbb{Z}_2$  と  $T'$  は  $H$  の中で共役であることがあかるので、  $H$  の元  $h$  が存在して  $T^m \times \mathbb{Z}_2 = h^{-1}x^{-1}(T^m \times \mathbb{Z}_2)xh$  となる。従って  $xh \in N_G(T^m \times \mathbb{Z}_2)$  であるが、  $xh$  と  $x$  は  $G/H$  の元として等しいので  $F$  は最初から  $N_G(T^m \times \mathbb{Z}_2)$  の部分集合であると仮定してよい。射影  $G \rightarrow G/H$  による  $N_G(T^m \times \mathbb{Z}_2)$  の像は  $N_G(T^m \times \mathbb{Z}_2)/N_H(T^m \times \mathbb{Z}_2)$  であるので  $F$  はその代表と考えてよい。

$$N_G(T^m \times \mathbb{Z}_2)/(T^m \times \mathbb{Z}_2) \cong \Sigma_m \int \mathbb{Z}_2$$

$$N_H(T^m \times \mathbb{Z}_2)/(T^m \times \mathbb{Z}_2) \cong \mathbb{Z}_2 \times \Sigma_{m-1} \int \mathbb{Z}_2$$

$y = (\sigma; \varepsilon_1, \dots, \varepsilon_m) \in \Sigma_m \int \mathbb{Z}_2$ ,  $z = (\delta; \rho; \delta_1, \dots, \delta_m) \in \mathbb{Z}_2 \times \Sigma_{m-1} \int \mathbb{Z}_2$  とする。

ここに  $\mathbb{Z}_2 = \{\pm 1\}$  と考える。このとき

$$y^{-1}g(\theta_1, \dots, \theta_m; -1)y = g(\varepsilon_1 \theta_{\sigma^{-1}(1)}, \dots, \varepsilon_m \theta_{\sigma^{-1}(m)}; -1)$$

$$z^{-1}g(\theta_1, \dots, \theta_m; -1)z = g(\delta \theta_1, \delta_1 \theta_{1+p^{-1}(1)}, \dots, \delta_{m-1} \theta_{1+p^{-1}(m-1)}; -1)$$

であるから、  $\chi_{i,m}(g(\theta_1, \dots, \theta_m; -1)) = \sum_{k=1}^m 2 \cos \theta_k$  がある。同様にして、  $\chi_{i,m}(g(\theta_1, \dots, \theta_m; 1)) = \sum_{k=1}^m 2 \cos \theta_k$  を得る。これで命題は証明された。

#### § 4 Adams conjecture

$F_n$  を  $S^n$  の based homotopy 同値全体の成す monoid,  $BF_n$  をそ



の分類空間,  $BF = \operatorname{colim} BF_n$  とする。有限 CW-複体  $X$  に対して  $[X, BF]$  は  $X$  上の spherical fibre bundle の fibre homotopy 同値類の成す加群と同型である, [9]。有限 CW-複体  $X$  に対し  $Sph(X) = [X, BF \times \mathbb{Z}]$  と定義し,  $J: KO(X) \rightarrow Sph(X)$  を  $J(\xi) = ([\xi], \dim \xi)$  と定義する。Segal [8] によると  $\{F_n\}$  は  $\Gamma$ -category であり, それから得られる infinite loop space は  $BF \times \mathbb{Z}$  である。従って  $Sph$ -理論は cohomology であり, transfer を持つ。また  $\Gamma$ -category の写像  $\{O(n) \rightarrow F_n\}$  は infinite loop map  $j: BO \times \mathbb{Z} \rightarrow BF \times \mathbb{Z}$  を導き  $j_* = J$  となる。従って  $J$  は安定自然変換であり, transfer と可換になる。

$\phi$  を素数とする。可換群  $A$  に対して  $A \otimes \mathbb{Z}[\frac{1}{\phi}]$  を  $A[\frac{1}{\phi}]$  と書く。 $KO$ -理論上の Adams 作用素  $\psi^{\phi}$  は,  $KO^*(\ )[\frac{1}{\phi}]$ -cohomology 上の安定な作用素に拡張できる, [4]。従って  $\psi^{\phi}$  は  $KO(\ )[\frac{1}{\phi}]$ -理論における transfer と可換である。

#### 定理 4.1 (Adams conjecture)

$$J(\psi^{\phi} - 1) = 0 : KO(X)[\frac{1}{\phi}] \rightarrow Sph(X)[\frac{1}{\phi}]$$

**証明** この定理は一次元と二次元の場合が Adams [1] によって示された。 $\xi$  を  $X$  上の  $2m+1$  次元実ベクトル束とする。このようになるは  $KO(X)$  を加群として生成するから  $J(\psi^{\phi} - 1)(\xi) = 0$  を示せばよい。 $\xi$  の同伴主  $O(2m+1)$ -束  $(E \rightarrow X)$  を考える。 $\S 2$  で定義した写像  $\alpha: RO(O(2m+1)) \rightarrow KO(X)$  は canonical 表

現るをさらに写す。次の可換図式を考える。

$$\begin{array}{ccccc}
 RO(H)[\frac{1}{p}] & \xrightarrow{\alpha} & KO(E/H)[\frac{1}{p}] & \xrightarrow{J} & Sph(E/H)[\frac{1}{p}] \\
 \downarrow i_! & & \downarrow p_! & & \downarrow p_! \\
 RO(G)[\frac{1}{p}] & \xrightarrow{\alpha} & KO(E/G)[\frac{1}{p}] & \xrightarrow{J} & Sph(E/G)[\frac{1}{p}]
 \end{array}$$

ここに  $G$  と  $H$  は § 3 と同じものとする。すると

$$\begin{aligned}
 J(\psi^q - 1)(\xi) &= J(\psi^q - 1)\alpha(\nu) \\
 &= J(\psi^q - 1)\alpha(i_! \mu + \nu) \\
 &= J(\psi^q - 1)\alpha i_! (\mu) + J(\psi^q - 1)\alpha(\nu) \\
 &= J(\psi^q - 1)p_! \alpha(\mu) + J(\psi^q - 1)\alpha(\nu) \\
 &= p_! J(\psi^q - 1)\alpha(\mu) + J(\psi^q - 1)\alpha(\nu) \\
 &= 0
 \end{aligned}$$

### References

- [1] J. F. Adams : On the group  $J(X)$ -I, *Topology* 2 (1963), 181-195.
- [2] M. F. Atiyah : *K-theory*, Benjamin 1967.
- [3] M. F. Atiyah : Bott periodicity and the index of elliptic operators, *Quant. J. Math. Oxford*(2), 19 (1968), 113-140.

- [4] M.F. Atiyah and G.B. Segal : Equivariant K-theory and completions, J. Differential Geometry 3 (1969), 1-18.
- [5] C. Kosniowski : Equivariant cohomology and stable cohomotopy, Math. Ann. 210 (1974), 83-104.
- [6] G. Nishida : The transfer homomorphism in equivariant generalised cohomology theories, J. Math. Kyoto Univ. 18 (1978), 435-451.
- [7] G.B. Segal : The representation ring of a compact Lie group, Publ. Math. I. H. E. S. 34 (1968), 113-128.
- [8] G.B. Segal : Categories and cohomology theories, Topology 13 (1974), 293-312.
- [9] D. Stasheff : A classification theorem for fibre spaces, Topology 2 (1963), 239-246.